

90年前の「関東大震災」と鎌倉

2013年郷土資料展

鎌倉市中央図書館 近代史資料担当

2013年9月1日～10日

今年「関東大震災」から90年目にあたります。2年半前の3月11日、東北関東地方を襲った大震災を経験した私たちは、あらためて災害の歴史を振り返り、現在の環境を見直しています。今回の展示では私たちの町を襲った関東大震災について、残された災害写真や手記などから、その時起ったことにもういちど詳しく目を向けてみたいと思います。

1923年(大正12年)9月1日、午前11時58分、相模湾北部を震源とするマグニチュード8クラスの、プレート境界地震が関東南部から東京方面を襲いました。鎌倉は一瞬のうちに壊滅し、山は崩れ一時は陸の孤島のような状態になりました。『鎌倉震災誌』(昭和5年 鎌倉町役場刊)によれば、被害は鎌倉町で全壊1,455戸、半壊1,549戸、埋没した家8戸。さらに津波による流失113戸、地震直後の火災で全焼が443戸にのぼり、半焼は2戸で、者412名、重傷者341名を数えました。大船(山ノ内を含む)の被害は全壊450戸、半壊80戸、死者18名、負傷者は23名。腰越津村の被害は全半壊合せて310戸、死者70名でした。なお、深沢村もかなりの被害を蒙ったようです。ところで、当時の鎌倉町の全戸数は4,183戸、大船の全戸数が635戸、腰越津村は500戸以下でした。戸数・人口も少なく、鉄筋コンクリート造の高層建築もあまりなかった当時のこの数字は、今日の鎌倉と市民生活にとって重大な意味をもつものと考えられます。



『鎌倉震災誌』扉

【展示リスト】

■ 3階廊下展示ケース

①『鎌倉震災誌』が出来るまで

この本は、1923年9月1日の地震と津波、さらに火災に見舞われた鎌倉町の被害の状況と復興の過程を克明に記録し、後世の私たちに事実と教訓を伝えています。役場吏員(当時24名)、各地区区長、青年団、消防組などの協力のもと、当時役場書記小坂藤若、編集者石橋湛山(のちに鎌倉町町会議員)、小学校校長相沢善三らが中心になり編纂にあたりました。資料集めなど、編集には多大な苦勞がともない、7年の歳月を要し昭和5年に版行されました。「鎌倉NAMAZUの会」が現代文に翻訳した、新版『鎌倉震災誌』と共にご利用下さい。

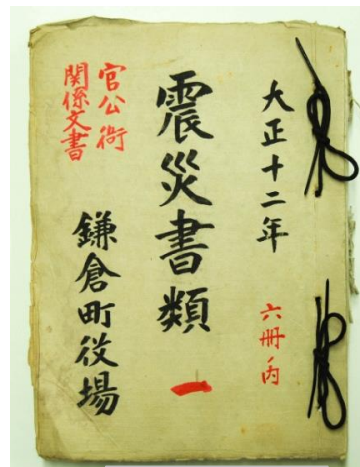
『鎌倉震災誌』清書原稿/『鎌倉震災誌稿』謄写版刷割付原稿/原稿「序」鎌倉町長清川来吉/『鎌倉震災誌』(昭和5年)/被害戸数調査表(「震災書類」四)/被害戸数調査表(坂ノ下区・乱橋材木座区)/大震災死傷者調査(「震災書類」四)/災害死傷者調査表(由比ヶ浜区・極楽寺区)/震災当寺の地図に見る家屋の被害状況

②『震災書類』より

『震災書類 鎌倉町役場』(六冊)/「!!!戒厳令とは?」九月五日第一師団司令部宣伝(「震災書類」二)/鎌倉警備隊警戒配備要図/「寄付申込書」金五百円 侯爵 前田利為/「食料品他救援物資を海上輸送にて手配下されたことにつき感謝状」九月八日 鎌倉町長より男爵岩崎小弥太宛/被災者の安否問い合わせに町役場で調査結果を回答/復興調査委員会開催通知(「震災書類」三) 扇ヶ谷庄清次郎宅にて開催/町役場仮事務所(写真)/九月四日鎌倉郡長より通達(「震災書類」一)/「清水行特務艦便乗許可」(震災書類)二

③救援物資と配給

配給品領収書4枚/廉売品請求書/廉売品配給台帳 鎌倉町役場/物品受入簿(大正十二年九月～十月十六日)/自大正十二年九月一日 至同十三年二月末日「諸物資需供簿」鎌倉町役場物資係/大正十二年九月「救護用薬品徴発台帳」鎌倉町役場/高齢者毛布領収証/愛国婦人会寄贈被服配給簿/配給品領収証 御用邸内救護所代表者 左右田信二郎/「報告書」大正十二年九月十九日大正十二年十一月五日/配給所(写真)



「震災書類」一



町役場仮事務所



戒厳令とは?

④社寺の被害調査

極楽寺本堂（写真）/極楽寺被害届（「社寺書類」）/妙法寺本堂（写真）/「寺院倒壊届」補陀洛寺/補陀洛寺本堂（写真）/「社寺書類」震災被害調/神社ノ部・寺院ノ部 調査書（「社寺書類」震災被害調鎌倉町役場）/社寺復興状況調査綴（昭和三年四月十一日発）復興状況調査 建長寺

⑤「坂ノ下埋立地」に描かれた震災復興・昭和の夢

神奈川県鎌倉由比ヶ浜埋立地平面図（1/600）戸野建築図事務所（昭和9年頃）/「公有水面埋立許可願」昭和三年三月十五日/鎌倉由比ヶ浜分譲地案内 鎌倉由比ヶ浜土地合資会社（昭和12年7月）/鎌倉由比ヶ浜分譲地案内図 鎌倉由比ヶ浜土地合資会社（年不詳）/鎌倉由比ヶ浜遊園地図（1/600）戸野建築図事務所（昭和9年頃）

○歴史震災年表

○2011年東北大地震救援報告（鎌倉市緊急消防援助隊一仙台市）

○鎌倉市津波ハザードマップ

■ 3階多目的室

○震災写真から見えるもの

展示写真の多くは、震災後間もなく、この惨状を記録することを重要と考えた「鎌倉同人会」（陸奥廣吉）が、長谷在住の写真師山辺善次郎に依頼し撮影したものです。写真は希望者に頒布され市民の手に残りました。

〈写真順路〉大仏前進/八幡前通り（画） □鎌倉停車場前/鎌倉銀行・町役場あと/ガード下から停車場付近焼け跡/立退き先標柱/八幡前火事/八幡前吉田陶器店焼け跡（画） □鎌倉町役場仮事務所/三団体事務所/鎌倉倶楽部 □ハリス教会/鎌倉小学校/鎌倉小学校講堂/林間教授/鎌倉小学校内仮郵便局（画） □由比ヶ浜通り六地藏付近/一の鳥居/海浜ホテル/壊れた一の鳥居の間を通る人達/海岸通り陸奥廣吉邸の被害 □坂ノ下海岸及び大正館跡/霊山崎より見た由比ヶ浜海岸のあと/坂ノ下海岸/稲瀬川口の加藤別荘あと □坂ノ下通り/霊山ヶ崎/霊山山頂コッホの碑/捕海賊船図（画） □長谷諸戸別荘臨時病院）/長谷観音前の焼失あと/長谷所見（版画）/長谷区事務所/ □由比ヶ浜より観音堂遠望（画）/雨中遁鼠図（画） □材木座光明寺/材木座モリソン屋敷付近/滑川仮橋に立つ厨川白村氏 □十二所光触時/宅間ヶ谷報国寺/荏柄天神社 □三の鳥居 太鼓橋も落ちる/鶴岡八幡宮舞殿/鶴岡八幡宮上宮楼門/三の鳥居/舞殿/白旗神社 □円覚寺舍利殿/建長寺山門/山ノ内東慶寺/巨福呂坂崩落

○追悼一震災1周年忌（展示ケース）

○市内に残る震災慰霊碑（写真撮影原山正征）

震災追憶供養塔碑（建長寺）/重修碑（建長寺）/関東大震災記念碑（腰越小学校）/関東大震災歿死供養塔（腰越浄泉寺）/鎌倉八幡宮国宝大鳥居重修の記/大震災歿死供養碑（和田塚）/大震災横死者之霊（大町大宝寺）/饑渴碑（六地藏）/久米正雄碑（長谷寺）/実朝歌碑（鎌倉国宝館前）/鎌倉山の碑（鎌倉山）

○震災復興（展示ケース）

鎌倉国宝館建設 祝辞 /鎌倉町役場（バラック）/復興祭写真

○消えたランドマーク

鎌倉実業銀行/鎌倉銀行/吉田陶器問屋/材木座モリソン屋敷付近/小町園/長谷三橋旅館/材木座中島館/坂ノ下海月楼

○「震災写真」（飛行偵察写真）

震災直後、横須賀海軍航空隊が伊豆半島、三浦半島、館山湾の上から沿岸部を偵察飛行し、震災被害の状況を記録した。鎌倉地域は六枚の写真が存在。偵察日：九月九日（アジア歴史資料センター資料「震災写真帖 第二輯」より） 鎌倉（一）△御用邸倒壊 鎌倉（二）長谷附近 中央三橋旅館附近焼け跡鎌倉（四）材木座附近



一の鳥居倒



霊山山崩落



巨福呂坂開墾



英勝寺山門倒壊



鎌倉駅前火災



大仏前進

○震災応急測図原図（鎌倉地域）

国土交通省国土地理院（旧参謀本部陸地測量部）には、関東大震災の被害状況を記載した「震災地応急測図原図」が保管されています。この地図は、関東地震直後の9月6日から15日という短期間で、当時の参謀本部陸地測量部が延べ94名もの要員を配して作成したものです。ですから、90年前の地形と土地利用状況、交通網の発達状況（鉄道と道路など）が分かると同時に、関東大震災による被災状況が克明に読み取れます。

1：50,000秘図地域「横須賀」「三崎」

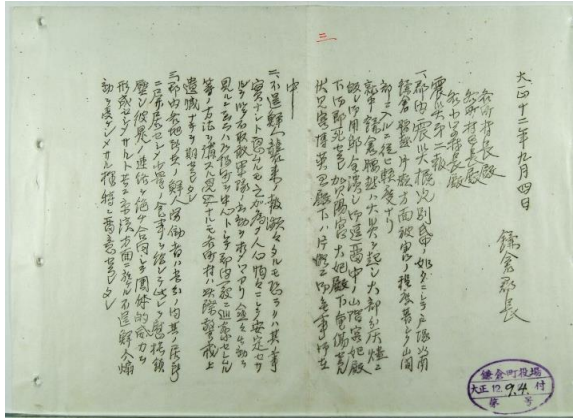
○鎌倉の津波記録地と標高分布（豆腐川・滑川流域・稲瀬川流域）
（作成：萬年一剛）

○「長谷・坂ノ下津波の図」（作成：渋谷雅子・伊東雅江）

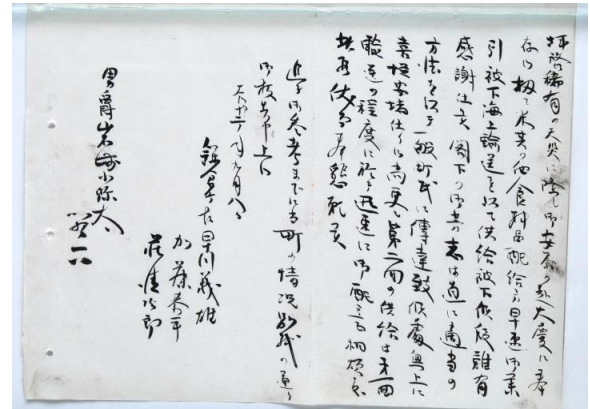
○デジタル資料（鎌倉地域震災写真約100枚・『震災書類』鎌倉町役場）



鎌倉銀行・町役場倒壊



鎌倉郡長より震災第二報 町村長校長宛



男爵岩崎小弥太宛救援感謝状



長谷稲瀬川尻 別荘流失



材木座モリソン屋敷付近流失



腰越浄泉寺震災慰霊碑



坂ノ下・長谷海岸津波



臨時救護所 長谷諸戸邸

第1震は大正12年9月1日の午前11時58分45秒、第2震（余震）は零時40分に襲来しました。建物や橋梁の倒壊、山崖の崩壊等被害の大部分は第1震によるもので、第2震では被害を一層深刻にしました。

また、建物等の倒壊状況や地上の亀裂などを観察した結果、鎌倉町での地震はほぼ南北に強く活動したことがわかりました。たとえば、大仏は南南東で45cmだけ沈下し、下がった方へ35cm程動きました。さらに、光明寺山門は北西に50cm程ずれたといえます。

当時の鎌倉町（現在の大船・山ノ内・腰越地区等を含まない）の戸数は4,183戸で、被害状況は下の表のとおりです。被害が軽微だったのはわずかに600戸程度でした。

鎌倉町被害戸口表

字 別	全戸数	全潰	半潰	埋没	全焼	半焼	流失	死亡者
十二所	40	3	11	1	0	0	0	2
浄妙寺	40	10	15	0	0	0	0	5
二階堂	106	11	19	0	0	0	0	2
西御門	43	8	5	0	0	0	0	1
雪ノ下	432	229	127	0	76	2	0	37
扇ヶ谷	192	70	73	0	1	0	0	17
小町	435	123	109	0	158	0	0	43
大町	527	196	301	1	0	0	0	21
由比ヶ浜	662	176	192	0	105	0	0	74
乱橋材木座	607	250	326	0	1	0	30	59
長谷	553	161	201	0	102	2	30	92
坂ノ下	361	161	118	6	0	0	53	52
極楽寺	185	57	52	0	0	0	0	7
合計	4,183	1,455	1,549	8	443	4	113	412

建物のうち、最も被害が大きかったのは石造・土造・レンガ造で、木造瓦葺ぶき・草ぶきなどがこれに次ぎ、アエンぶき・板ぶきは最も軽微でした。当時鎌倉町にレンガ造では鎌倉銀行が、土蔵造では駿河銀行がいましたが、これらは倒壊して6名の圧死者と数名の負傷者が出ています。

このほか土手や石垣も崩れ、道路はいたるところで亀裂を生じました。ことに七切通等の崩壊は著しく、町外との連絡や救護品の輸送等が途絶えたといわれます。（鎌倉NAMAZUの会資料参照）

2013年郷土資料展 主催 鎌倉市中央図書館 TEL0467-25-2611
 90年前の「関東大震災」と鎌倉一震災写真から見えるもの
 展示期間：2013年9月1日～10日
 場所：鎌倉市中央図書館3階 多目的室・廊下展示コーナー
 記念講演：萬年一剛氏（神奈川県温泉地学研究所）
 「1923年大正関東地震による津波」
 （9月7日1時半～4時 鎌倉市中央図書館にて TEL申し込み）